

はな華

# HanaHana

VOL.13  
2024

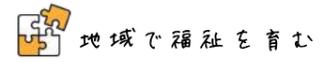
社会福祉法人  
三幸福祉会  
清華苑 広報誌

HanaHana  
Hanahana  
2024年 第13号  
2024年6月15日発行 編集:SEIKAIEN Design Lab 発行人:池田ひとみ  
社会福祉法人 三幸福祉会 〒674-0051 明石市大久保町大塚 3104-1 TEL.078-934-0800 <https://seikaen.jp/>



特集

地域で福祉を育む



BLOG TOPICS ~ギフトス 子供たちへの贈り物~



2024.5.9 清華苑デイサービスセンター



笑顔あふれる  
ギフトス  
GifuToss  
レクリエーションや作業活動で制作した手作りおもちゃを  
保育園やこども園に寄付する取り組みをはじめます！



デイサービスのご利用者が作業活動で制作した手作りおもちゃを保育園やこども園に寄付する取り組み。名付けて「ギフトス」。

ご利用者自身が社会貢献活動を通じて、達成感の獲得や活動意欲の向上に繋げることで、高齢者と園児との相互交流を目的としています。

この度、こども園を訪問してご利用者から園児に完成したおもちゃを直接お届けしました。園児たちは、興味津々で大変喜んでいました。

園長先生は「子供たちは既製品のおもちゃよりも手作りのおもちゃの方に興味を示してくれることが多いです。それに園児が家族や保育士以外の大人と触れ合う機会は成長の過程で良い影響を及ぼしてくれます」と言われていました。

高齢者、園児、職員、沢山の笑顔溢れた時間となりました。今後も世代を超えた交流の機会として取り組みを続けていきます。

(ブログ記事より抜粋 一部加筆)



# 地域で福祉を育む

## INTERVIEW

田村智之 法人本部 統括部長



### 私たちの使命は経営理念に有り

地域には様々な業種の企業が存在しています。それぞれに地域や社会における役割を担いながら活動を続けているわけですが、では私たちの使命は何か。

社会福祉法人三幸福社会として昭和62年に産声をあげて今日まで「福祉」を軸足に35年あまりが経とうとしています。その間も考え方の中心にはいつも経営理念がありました。ここで当法人の経営理念をご紹介します。

- ・利用者の皆様とのご縁を大切に、利用される方にとって価値あるサービスを提供します。
- ・提供するサービスは、自然で心暖かいものをめざします。
- ・サービスを通して、地域に信頼と安心をお届けします。

経営理念は対象者を「高齢者」と限っているわけでもなく、サービスの内容を「介護」

に限るわけでもありません。だとすれば「福祉」を軸足に培ってきたノウハウをあらゆる世代の方へあらゆる手段で活かしていくことができると考えられます。

そのためか、当法人では、高齢者福祉施設としては少し珍しいと言われる活動もありますが、先に紹介した経営理念からすれば私たちにとってはごく自然な形で取り組んでいるという認識です。

その中でも、特に力を入れているのが地域福祉力の向上です。これは地域住民の方たちと働く職員たちの2軸で考えています。

地域住民の方たちに向けては、「福祉」に関する興味・関心をもっといただき、そして知識を得ていただく活動に取り組んでいます。例えば学生には、これまで小学生に「福祉×SDGs」、中学生に「高齢者との関わり方」、高校生に「基

礎的な介護技術」をテーマに授業を通して伝えさせていたいただきました。

学生以外では、「生活援助訪問型サービス従事者養成研修」や各種出前講座がこの取り組みの一環だと考えています。

これまで関わった方たちからは「家に帰っておばあちゃんに教えてあげたいと思います」「自分にもできることもがあると感じました」「困ったときは一人で考えずに相談したらいかがでしょうか」などの声をいただきました。

地域住民の方たちが1人でも多く、「福祉」に関する興味・関心を持ち、知識を得ていくことで、福祉に強い地域になっっていくのではないかと考えています。

一方、働く職員たちは「福祉」に関する知識に加え技術を身に付け、そしてその知識と技術を活かし、自身の価値を高めていくことが求められています。

そのためには目の前にいる、私たちを必要としてくださっている方たちへ、しっかりとサービスを提供していくことはもちろんのこと、色んな取り組みにチャレンジしてもらいたいと考えています。

日々の決められたサービス「やるべきこと」だけではなく、「こんなこともやってみよう」という「やりたいこと」にも成長のチャンスがあります！

『地域で福祉を育む』取り組みには地域住民の方たちへのかかわりを通して、そこへ携わる職員の成長にもつなげたいという思いが込められています。

これからも経営理念を大切にしながら地域住民の方たちと働く職員たちの2軸を意識して『地域で福祉を育む』取り組みに力を注いでいきます！



### PROFILE

#### 田村智之

法人本部の統括部長として地域や行政、教育機関との連携や職員育成を担当する一方で、法人外では社会福祉士としてNPO法人等の福祉団体の活動にも携わり、法人内外から「地域で福祉を育む」取り組みを実践している。

## 清華苑ふくし相談センターの役割



### ものづくり教室

ふれあいの里大久保で開催しています。講師は法人職員の片岡事務員。プロフーモやしめ縄づくりなど制作します。地域住民の良き交流の場となっています。



### ながら体操

地域からフレイルをなくし隊！の活動。大久保地区「みんなの給食」へ、出前講座に行きました。昼ご飯の前に、身体と頭をフル回転していただきました。



### みっくすカフェ

認知症、男性介護者、ひきこもり、ヤングケアラーなど共通の悩みを抱えている地域の方々が集い、語り合い、福祉の専門職も同席してご相談にも応じる福祉カフェです。



### いきいき百歳体操

高知県高知市で始まった『いきいき100歳体操』重りを使った筋力運動の体操は現在全国で大人気！出前講座で地域のサロンで実施しています。



### 認知症講座

高丘の地域サロン「大樹（だいじゅ）の会」へ出前講座。「教えて、認知症のこと」をテーマに、介護現場での成功例や失敗例を交えながらお話ししました。



### 生活援助訪問型サービス従事者養成研修

明石市からの委託を受けて「生活援助訪問型サービス従事者養成研修」の講師を清華苑の職員7名が担当させていただきました。（2023年度）



### 赤い羽根協同募金活動

大久保小地区社会福祉協議会の一員なので、毎年10月1日は、JR大久保駅前でも市社会福祉協議会主催の赤い羽根協同募金活動に参加しています。



### 支えあいフレンド養成講座

明石市社会福祉協議会主催のボランティア講座を行いました。定年退職後ボランティアをしようと決めておられた方等、とても熱心な12名の方が参加してくださいました。



### 回想法講座

夢工房大久保「やすらぎカフェ」で出前講座を行いました。回想法は、昔の経験や思い出を語り合う一種の心理療法です。認知症の方へのアプローチとして注目されています。



姿勢が良くなるバレエ体操

## 施設と地域を繋ぐ架け橋

清華苑ふくし相談センターは、介護や福祉に関する相談窓口だけでなく、ボランティアや学生の皆さん、地域住民からの様々なニーズにこたえていく役割を担っています。一言でいえば、清華苑と地域をつなぐ架け橋です。

主には、「地域サロンの運営」と「出前講座の調整」を行っています。「コロナ禍の際は制限が多く、年間20回程しか地域に出向くことができませんでした。令和5年5月に5月に引き上げられてからは、週1回のペースで地域に行かせていただいています。

「地域サロンの運営」では、姿勢が良くなるバレエ体操やみっくすカフェを毎月1回ずつ開催しています。「出前講座の調整」では、各団体の意向に合わせた講座内容や講師陣を調整しています。



BLOG

清華苑ふくし相談センター  
〒674-0064  
明石市大久保町江井島 1649-1  
TEL 078-938-0770

出前講座の当日に講師だけを派遣することも可能ですが、「地域とのつながり」であるふくし相談センターの職員が必ず同行し、顔の見える関係性の構築や、介護相談等もお受けしています。皆様のサロンでも、ぜひ清華苑の出前講座をご利用ください。

元気な時も介護が必要になった時も、いつも清華苑は地域と共にあります。私たちの事業活動がいつか皆様のお役に立つ事ができれば幸いです。

これからも地域に信頼と安心をお届けしていきます。

学校との連携



【令和5年度 講師派遣一覧】

- ◆大学
  - ・関西福祉大学 社会福祉学部
  - ・神戸医療未来大学 社会福祉学部
  - ・兵庫大学 生涯福祉学部
- ◆専門学校
  - ・神戸医療福祉専門学校 介護福祉士科  
「認知症の理解」「人間関係学」「介護課程」など
- ◆高等学校
  - ・兵庫県立明石南高等学校  
2年生「生活と福祉」1クラス（5月～翌2月）  
3年生「社会福祉基礎」3クラス（5月～翌1月）
- ◆中学校
  - ・明石市立高丘中学校  
3年生「家庭科（高齢者とのかかわり）」
  - ・明石市立魚住東中学校  
3年生「家庭科（高齢者とのかかわり）」

当法人では近隣の大学、専門学校や高校と連携を図っています。例えば授業やセミナーへの講師派遣、実習生の受け入れや実習指導者交流会に参加しての意見交換など行っています。

連携の目的は、学生のみならず「福祉」という仕事の魅力を発信していくことです。次代の福祉を支えるマンパワーが1人でも多くなって欲しいと願い、自分たちにできることを考えながら連携を図っています。同時に職員にとっても「伝える」という行為を通してスキルアップの良い機会となっています。

社会福祉法人にとって、未来の福祉を担う力を育むことは重要な役割です。それが結果的には地域の福祉力をアップさせることになり、地域のみならず「安心して生活ができる」事に繋がります。これからも学校と連携し、地域の福祉を育んでいきます。

未来の福祉力を育む